

# 平成29年度 山口県立萩商工高等学校 学校評価書

<b>&lt;教育目標&gt;</b>	○各学科が専門分野を生かした系統的な学習を充実し、各分野のスペシャリストとして必要な知識技術を習得させる。 ○未来の社会を主体的に力強く生き抜く人材を育てるため、豊かな人間性を育むとともに、生徒一人ひとりの個性を生かして、その能力を十分に伸ばすキャリア教育を行う。
<b>&lt;めざす学校像&gt;</b>	①商業学科と工業学科の特色を生かした専門教育の推進と学校行事、部活動を通じて生徒が生き生きと活動する学校 ②キャリア教育の充実による生徒の多様な進路実現を図る学校 ③地域の産業や伝統文化に学び、地域に信頼され、地域に貢献する学校
<b>&lt;育てたい生徒像&gt;</b>	①心身ともに健康で高い志を持ち、社会から信頼され、チャレンジ精神を持った生徒 ②各学科の専門性と連携を生かし、将来のスペシャリストをめざして知識と技術を習得した生徒 ③ふるさとを愛し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身に付けた生徒

<b>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</b>	
①親師会活動については、28年度は参加率が上昇したが、親師会総会の出席率が上がっていない。保護者への情報発信に力を入れて活性化を図っていききたい。	
②朝読書の実践が定着して読書習慣が身に付いたと思う生徒が増えており、その効果として、落ち着いた雰囲気は授業に感じられる。	
③家庭学習の時間については、「家庭学習時間が1時間未満」「全くしていない」が本校生徒は70.6%(山口県全体では46.0%)と非常に低い。昨年度は、79.6%(山口県全体では16.6%)と1割近く減っているが、学習する生徒としない生徒の格差が広がっているとも考えられる。学習習慣の確立に向けては、今後も保護者と連携しながら取り組んでいくことが大切である。	
④校内では比較的落ち着いた態度で学校生活を送っている。スマートフォン等の利用のマナー、モラルの指導及び自転車のマナー等交通安全指導を、より一層力を入れて行い規範意識を醸成することが重要である。	
⑤いじめ等の問題については、未然防止、早期発見・早期対応につとめている。また、家庭状況等を含めた諸問題を抱えた生徒についても、教育相談、スクールカウンセラー等と連携した体制を整えている。	
⑥生徒会の役員を中心とした萩往還清掃活動や建築コースの技術ボランティアなど、多くの地域貢献活動を行っている。また、萩LOVEハイスクールや萩駅のイルミネフェスタなど地域と連携した取組も一層充実したものになり、様々な活動は生徒の有用感を感じさせるものとなっている。	
⑦部活動については各部とも熱心に練習に取り組み、多くの部が全国大会、中国大会に出場した。ただし、生徒数の減少等に伴い、今後も部活動のあり方について検討する必要がある。	
⑧キャリア教育年間計画にそって進路ガイダンス、進路講話、面接指導等実施した。また、1年次インターンシップについては、商業科と工業科が連携を図り、全教職員による同日実施をすることができた。今後、さらなる教職員の連携を深め、段階的・組織的なキャリア教育の推進と充実を図っていくことが重要である。	
⑨保健室を中心として、生徒、教職員の健康指導を実施するとともに、インフルエンザ等の感染症にも関係機関と連携をとりながら対応できている。なお、教職員の定期健康診断による再受診は改善が見られ、今年度も健康の保持増進の取組を進めていく。	
⑩HP・ブログや、分掌だより、学級通信等を通して、様々な学校情報の公開を保護者等に対して行っている。特に学校の情報を効果的に発信するため、メーリングリストの普及に努め、登録率は100%近くを達成している。今年度においても登録率100%達成を目指し、開かれた学校づくり、地域とともにある学校づくりに努めたい。	
⑪業務改善では、校務分掌内の編を回り、スムーズな分掌運営に努められた。引き続き、分掌内業務を見直すなど、業務の平準化を図り、教職員の多忙感の解消を進めていきたい。	

<b>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</b>	
<b>&lt;平成29年度チャレンジ目標&gt;</b> ①さわやかな挨拶をする    ②学習習慣を身に付ける    ③目標を持つ	
<b>【積極的な情報発信】</b> ○中学校への積極的な情報発信(校長、科・コース、部活担当等の中学校訪問) ○メディアや紙面を活用した情報発信、学校紹介DVDの作成 ○メーリングリストへの登録率の向上とブログやメールによる情報発信	
<b>【学習指導】</b> ○「わかる授業」の実践を通して、基礎学力の向上と家庭における学習習慣の定着 ○担任、教科、部活動顧問の連携による文武両道の実践	
<b>【生活指導】</b> ○節度ある生活態度の育成(考え、判断し、行動する力)と生徒の自浄能力の向上(生徒会活動の充実) ○早期の情報共有による問題行動、不登校、いじめの未然防止	
<b>【進路指導】</b> ○年内就職内定100%と進学意識の早期確立と実力の養成 ○県内就職・進学のための進路ガイダンスの充実→人口定住	
<b>【保健体育】</b> ○健康診断後の受診率の向上等、生涯にわたって健康・安全な生活ができる能力の育成 ○全員による学校内外の美化・掃除の徹底 ○ブラインド方式による避難訓練の実施等による学校防災の充実	
<b>【業務改善等】</b> ○最終退庁時刻19時台(努力目標)の設定による時間外業務の削減 ○部活動の週1回の休養日と月1回以上の土日の休養日の実施による教員・生徒の心身の健康維持 ○各科・コース等による地域連携を考慮した活動の推進	

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
総務	1 学校行事の適切な計画、調整、運営	・行事の計画・運営に際し、関係者との調整を図り、事前の準備を徹底させる。 また事後、改善へ向けて検討を行う。	4:事前の準備と事後の改善が十分にでき、適切な行事運営ができた。 3:事前の準備と事後の改善ができ、ほぼ適切な行事運営ができた。 2:事前の準備と事後の改善はできなかったが、行事運営はできた。 1:事前の準備、事後の改善、行事運営ともに適切でなかった。	3	○年度初めの行事や学期末の行事などについて、関係者と早めの調整を行い、適切な運営ができた。 ○それぞれの業務の改善点を担当者がまとめ、来年度に引き継ぎたい。	・総会の出席率をあげることが課題である。声をかけ続けること、メール配信等の手段を使い周知を図るようにしてほしい。 ・参加しやすい親師会行事の工夫をお願いしたい。
	2 親師会活動の活性化	・総会及び親師会諸行事の参加率を高めるために、案内状やメール等によって情報を発信し、様々な機会を捉えて保護者に働きかける。	4:親師会行事へのべ七割以上の参加をいただいた。 3:親師会行事へのべ五割以上の参加をいただいた。 2:親師会行事へのべ三割以上の参加をいただいた。 1:親師会行事への参加がのべ三割未満であった。	1	○親師会総会141名、球技大会85名、萩商工祭35名と、例年より多くの参加があった。特に萩商工祭での親師会企画もちつきは、保護者の方々の御協力のおかげで、大盛況であった。 ○教育講演会は、25名と昨年より多くの保護者が講演を聞きに来てくださった。 ○研修視察は参加者は多くなかったが、有意義な行事となった。 ○メールなどで情報発信を行うとともに、行事の企画・運営について親師会委員会で検討を行い、多くの参加を呼びかけていきたい。	
教務	基礎学力の向上と家庭における学習習慣の定着	・朝読書の継続により、読書習慣の定着をはかる。  ・家庭における学習習慣の定着の方策の検討し、実施する。	・1日あたりの読書時間を調査し、読書習慣の定着をはかる。 4:7割以上の生徒が、読書の習慣が身に付いている。 3:5割以上の生徒が、読書の習慣が身に付いている。 2:3割以上の生徒が、読書の習慣が身に付いている。 1:3割未満で読書の習慣が身に付いているとはいえない。  ①方策を検討し、実施する ②家庭学習時間の調査を行う 4:①、②を行い、家庭学習の時間は増加し、十分な成果をあげることができた。 3:①、②を行い、家庭学習の時間は増加した。 2:①、②を行ったが、成果をあげることができなかった。 1:①、②いずれも実施することができなかった。	3  2	○3年生に実施したアンケート結果によると、約35%の生徒が「あまり本を読まなかったが、10分間は読書をするようになった」と回答している。約90%の生徒が朝読書に積極的に取り組み、落ち着いた学校生活を始める第一歩となっている。来年度以降も朝読書を継続し、自ら読書を通じて人間性・創造力・自己啓発力等を身に付けることができる生徒を多く育てたい。一方、朝読書以外にも読書をしている生徒は54%となった。目標である7割に近づけられるよう更に読書活動の推進に努めたい。  ○学習習慣の定着にむけ、考査発表中や期間中に図書館を開館し、補習なども行った。電車の時間を待つ生徒等、多くの生徒が利用し自主的に学習に取り組んでいた。 ○漢字検定等の受験を勧めたり、定期的に英単語の小テストを行ったり、長期休業中の課題を工夫したりし、生徒が意欲的に取り組むことができるようにした。 ○家庭学習の時間が増加したという成果は見られなかったが、教員の授業アンケートを行うことにより、生徒の授業や考査への取組みの状況を把握し、今後の授業改善に生かして行きたい。	・資格・検定試験についての学習の取組はよい。 ・卒業生からは、試験週間は一生懸命に勉強したことと、一部の授業では騒がしいこともあったと聞いている。 ・就職する者と進学する者において、学習の取組の意識差があるように思う。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
生徒	1 基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上	専門高校生として、社会人としてのマナーを身につけさせるとともに、就職や進学試験に向けて、服装や身なり、規律の重要性を認識させる。	4:服装頭髪検査で再検査での不合格者が年間5名以下だった。 3:服装頭髪検査で再検査での不合格者が年間15名以下だった。 2:服装頭髪検査で再検査での不合格者が年間30名未満だった。 1:服装頭髪検査で再検査での不合格者が年間30名以上だった。	4	○6回の検査により達成度を評価。 年6回の頭髪服装検査を実施し、全校で2名の生徒が再検査で不合格になった。「いつでも面接試験が受けられる頭髪・服装であるよう普段より徹底する」を掲げ、再検査になった生徒は多数いるものの指導した結果、再検査での不合格者は少数となっている。 引き続き日常の指導を全教員で行うことで予防的生徒指導を行うことが重要である。	・生徒の服装はきちんとしており、良いと思う。 ・玉江駅前等で横断時にお辞儀ができる等礼儀正しいと感じている。 ・自転車のマナーも以前にくらべ良くなっている。 ・部活等を終えて空腹なのだろうが、食べ歩き等が目立つことから、全体指導が必要と思う。 ・駐輪する自転車の並べ方を気をつけてほしい。	B
		交通安全指導を徹底し、交通安全に対する意識を向上させ、自転車交通マナーの改善や交通事故の減少につなげる。	4:交通安全指導を徹底し、十分な成果があった。 3:交通安全指導を徹底し、ある程度成果があった。 2:交通安全指導を行ったが、あまり成果があがらなかった。 1:交通安全指導を行う機会がなく、意識の向上につながらなかった。	3	○毎学期の交通安全指導や立哨の成果も有り、交通マナーに関する苦情は減っているが、交差点での車と自転車との接触事故が数件あった。怪我をした生徒もおり、高齢者の運転も増えていることも考慮して、より一層の指導が必要である。		
	2 生徒会行事を生徒会が主体的に実施するとともに、部活動の充実による元気な学校づくりの推進	生徒会役員主導のもと、各種生徒会行事が運営できるように促す。	4:各種行事において生徒会役員が主体的にまとまって運営することができた。 3:各種行事において生徒会役員がほぼまとまって運営することができた。 2:各種行事において生徒会役員があまりまとまって運営することができなかった。 1:各種活動において生徒会役員が全くまとまって運営できなかった。	3	○各種行事において生徒会役員が主体的に企画運営を行った。また、生徒会全体の活性化を促すため、生徒会行事を生徒会役員だけで運営するのではなく、各種委員会と連携して計画から実施まで行うなど生徒会全体として組織的な運営を心がけた。特にクラスマッチでは体育委員会と協力し、円滑な立案運営ができた。	・地域に貢献する活動がよくできている。 ・商工祭のポスターや揃いのシャツ、クラスのトレーナーも揃えている等、チームワークや団結力があるように思う。	B
		各種生徒会行事で、全校生徒自らが主体的に活動できるように促す。	4:生徒会行事が実施されるまでに、全校生徒の意見を生徒会役員でまとめ、全校生徒が主体的に活動できた。 3:生徒会行事が実施されるまでに、全校生徒の意見を生徒会役員でまとめ、ある程度の生徒が主体的に活動できた。 2:生徒会行事が実施されるまでに、全校生徒の意見を生徒会役員でまとめたが、生徒があまり主体的に活動できなかった。 1:生徒会行事が実施されるまでに、全校生徒の意見を生徒会役員でまとめたが、生徒が全く主体的に活動できなかった。	3	○2、3年各学級に生徒会役員が在籍しており、生徒の意見を収集・反映しやすい現状にある。また、生徒会全体の活性化を図ったことで各委員会を通して全校生徒の意見収集もでき、要望や意見を反映させた生徒会行事(内容)の実施に努めた。各種生徒会行事については、多くの生徒が主体的に取り組んでいる。		
		地域に貢献する活動を積極的に実施する。	4:地域に貢献する活動を、全校生徒で行うことができた。 3:地域に貢献する活動を、生徒会役員で行うことができた。 2:地域に貢献する活動を、行うことができなかった。 1:過去行った地域に貢献する活動も行うことができなかった。	3	○体育祭、特に商工祭を積極的に案内するため、ポスターやCATV・FMラジオ、市報、新聞・広告等の様々なメディアを利用し、市民・地域住民の方々に広く宣伝し、より多くの方に来校してもらえた。 救済清掃活動を生徒会役員を中心に実施した。ボランティア活動への参加率が低い現状にあるため、その啓発活動に努めたい。		
	3 教育相談活動の充実	・学期に1回、いじめ・被害等の調査を実施し、対応が必要とされる事案があれば組織的に解決を図る。また、いじめ対策委員会等において対応を検証するとともに未然防止に努める。	4:全ての該当者に対応し、全て解消・解決できた。 3:該当者に対応したが、解消・解決できないことがあった。 2:該当者に対応したが、解消・解決できなかった。 1:該当者に対応できなかった。	3	被害調査等の調査を、6月中旬と11月下旬に、保護者へのいじめアンケートを10月中旬に実施した。担任、生徒部で本人、保護者に対応し解消・解決に努めた。その調査方法、対応方法について「いじめ検討委員会」で検討した。解消・解決していない事案については、継続的に指導・対応している。	・いじめの対策は理解はしても、感情を伴うものなので難しい。継続して取り組んでいただき課題を少なくしてもらいたい。 ・いじめられている子供の相談状況はどうか。 ・相談しやすい雰囲気をつくってほしい。	B
環境保体	1 生涯にわたって健康・安全な生活の実践ができる能力の育成を目指す。	・健康診断後の受診を促すために、親師会総会、保護者会、各HRなどで積極的に呼びかける。 ・プリントによる受診勧奨を定期的に行い、配付についてメール配信をする。	4:全体の受診率が80%以上であった。 3:全体の受診率が70%以上であった。 2:全体の受診率が50%以上であった。 1:全体の受診率が40%未満であった。	2	○昨年度同様に、健康診断後毎に受診勧奨を配付し、未受診者には3回の通知、夏休み・冬休み等の懇談で担任から保護者へ個別に勧奨したり、養護教諭の面談を行ったりした。その他、メール配信やホームページでも呼びかけるなど、一層啓発をした。その結果、受診率は12月末時点で67%であり、昨年並みである。引き続き、生徒自身の健康管理の意識向上を図り、行動に移せる力を育成していきたい。	・受診率が低いことについて、若いから治療しなくてよいと思っているのではないかと。将来の健康への悪影響を考慮した指導が必要なのではないか。	B
	2 進んで掃除をし、校内の美化に努める。	・学校医や地域と連携して、各種の健康課題(歯・性・薬物・こころ等)について、生徒の実態に応じた指導を行う。	4:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んで、生徒の健康意識も高まり、実践力がついた。 3:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んだ結果、生徒の健康意識は一時的に高まったが、実践する力があまりついていない。 2:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んだ。 1:学校医、地域と連携した保健指導を計画どおり実施することができなかった。	4	○スクールカウンセラーによる心理教育、地域講師による性教育、薬物乱用防止教室、心肺蘇生法、卒業前保健指導等、生徒の実態に応じ、講演会等を実施できた。生徒自身の気づきを深め、今後の行動変容に繋がるように、地域の専門家との連携を深めていきたい。		
進路	1 学校教育全体を通して、キャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの多様な進路希望に対応した進路指導を目指す。	・個々の生徒の進路希望について、進路指導部、外部カウンセラー、学科・学年・担任の連携のもと、面接・相談を行う。	4:全学年・全員に進路面接・相談を実施することができた。 3:全学年についてほぼ進路面接・相談を実施することができた。 2:あまり進路面接・相談を実施することができなかった。 1:全く進路面接・相談を実施することができなかった。	4	○1、2年生においては、担任や科長・コース長を中心に進路面接を実施。3年生については担任や科長・コース長や進路部員・チーフ就職サポーターも加わり全員の生徒の面談や相談を行うことができた。	・学習習慣とつながるが、就職する者と進学する者の割合はどの程度か。また、教員は大卒者が多いと思うが、高校卒業後に就職する生徒に対する助言はどのようなものか。 ・3年生の進路の決定状況はすばらしい。	A
		・生徒が自主的・主体的に進路を選択・決定するための能力を育成するため、必要な進路情報の提供や進路実現のための対策を行う。	4:3学年対象に求人票受付状況のメール配信や小論文指導、各種模試や公務員対策指導をするとともに就職ガイダンスとして企業説明会を本校で実施する。また1、2年生の保護者対象の進路ガイダンスを実施する。 3:上記項目の4つ以上が実施できた。 2:上記項目の3つが実施できた。 1:上記項目の実施が2つ以下であった。	4	○3年生には求人票受付状況のメール配信を7月3日から7月31日まで行った。小論文指導、各種模試、公務員対策講座も例年どおり実施できた。また今年は、3年生就職希望者に企業説明会を6月7日に実施し、県内外より17社に来校いただいた。さらに2年生には、12月19日地元企業説明会を行い萩・長門・美祢より6社の企業の方に来校いただき、企業情報などを生徒に提供することができた。		
	2 生徒自らがそれぞれの人生設計をし、自主的・主体的な進路選択能力を身につけさせる。	・進学希望の生徒に対し、担任・科長・コース長と連携をとりながら、入試状況の提供と指導・助言を行う。	4:該当生徒全員に情報提供を行い、指導・助言ができた。 3:該当生徒についてほぼ全員に情報提供を行い、指導・助言ができた。 2:あまり情報提供や指導・助言ができなかった。 1:全く情報提供や指導・助言ができなかった。	4	○3年生に対しては、面談や進路ガイダンス、校長教頭面談の企画・実施を通して進学希望者への情報提供、指導ができた。また、進学担当教員を中心に各生徒に3週間の面接指導を行うとともに、国語科の教員とも連携し、継続的な小論文指導や受験対策を行った。さらに、2年には校内外の進路ガイダンスを行い、進学に対する意識の向上を図った。		
商業	1 体系的な進路指導の確立	①1年生からの公務員対策、SPI対策等を行い、意識づけを強くする。 ②2年生からの面接対策を行う。(2年生後半から履歴書、出入り指導等) ③3年生の面接内容、面接指導についての検討を行う	4:左記の3つの取り組みすべてを行い、その後の検討をすることができた。 3:左記の3つの取り組みを行った。 2:左記のうち1つ以上取り組むことができた。 1:左記の取り組みをすることができなかった。	3	○3年生の面接指導については、担当を決め生徒一人ひとりの指導にあたり概ね実行できた。また、公務員対策・SB等も行い、意識付けはできた。しかし、2年生後半からの履歴書・出入り指導等ははまだ、実施しておらず、2月には実施したい。	・資格の指導は、就職先で活かせることができる意識を持たせた指導をお願いしたい。 ・職場において、文書の数字、文字が雑で読めない時があるので、丁寧な字を書く習慣を高校時代に身につけさせてほしい。	B
	2 基礎基本の定着を図り、資格取得を推進する。	自らが資格取得の目標を定め、ひとり2資格以上の取得の実現に向けて、各科目で計画を立てて指導を行う。	4:1、2年時で2資格以上を取得した生徒が80%以上だった。 3:1、2年時で2資格以上を取得した生徒が80%未満だった。 2:1、2年時で2資格以上を取得した生徒が70%以上だった。 1:1、2年時で2資格以上を取得した生徒が70%未満だった。	3	○1年生(97%)2年生(54% 2級以上)が2資格以上取得している。合わせると85%が2資格以上取得している。しかし、2年生での合格率が極端に低下していることも否めない。 従って、評価としては、最高段階にあるといえない。(1月3・4週が検定週間となるので、合格率が上がるよう指導していきたい。)		

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
機械	1 目標とした進路実現のために充実した教育活動を行う。	個別の面談を行うことにより意思の確認を行い、進路について理解を深める。	4:各学年に面談指導を行い、意識を高めることができた。 3:3年生のみ面談指導を行い、意識を高めることができた。 2:一部の生徒にのみ面談指導を行った。 1:実施できなかった。	4	○各学年で個人面談を実施した。3年生は担任とコース長が1学期に実施し進路決定においても有効で意志の確認、進路指導の充実が図れた。1、2年生についても、担任が実施した。学校生活についての確認、進路指導における導入が行えた。	・面談、資格指導の取組は良い。成果も表れており、満足できる。	A
	2 各種の資格取得に取り組む。	授業の内容に取り入れ、勉強の仕方についての確認を行い、一人でも多くの生徒に資格を取得させる。	4:ほぼ全員の生徒が1つ以上取得した。 3:半数以上の生徒が1つ以上取得した。 2:若干名の生徒が1つ以上取得した。 1:取得できなかった。	3	○授業で取り組んでいる資格については、例年通りの指導を行い、ある程度成果があった。ただし、自学自習する習慣があまりないので、全体で取り組めない試験については満足行く結果ではなかった。この点が今後の課題である。		
土木	1 土木技術者として必要な知識や社会性を養い、充実した進路決定を行う。	実習や現場見学を通じて、土木に関する興味を深めるとともに社会性の育成にも取り組む。講話や視聴覚教材を利用し、職業に対する意識を高めるとともに適正な進路について深く考えさせる。	4 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みが充実し、進路決定にも十分役立った。 3 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みを進路決定に役立てることができた。 2 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みを進路決定に役立てることがあまりできなかった。 1 実習や現場見学、講話、視聴覚教材等の取組みが十分にできなかった。	4	○全学年で現場見学を実施した。3年生は課題研究発表を1・2年生も含め、プレゼンソフトを使って行った。卒業生による講話では、社会人としての心構えなどを学ぶことが出来た。 ○進路指導では、適切な情報を各人に提供し、満足のいく進路決定を行うことが出来た。	・進路先を意識した現場見学や難しい資格取得への取組は素晴らしいし、成果も上がっている。	A
	2 資格取得やコンテストを通じ、土木に関する興味や専門的知識・技術を養う。	補習等により資格に対する意識を高めるとともに土木に関するコンテストにも積極的に取り組むことで専門的な知識や技術を養う。	4 資格取得やコンテストに積極的に取り組み、十分な成果を残すことができた。 3 資格取得やコンテストに積極的に取り組むことができた。 2 資格取得やコンテストへの取組みで、あまり成果が残せなかった。 1 資格取得やコンテストへの取組みが十分にできなかった。	3	○資格取得では従来の指導ができ、生徒の資格取得への意識の高さもあり、測量士補国家試験3名合格(2年9名・3年3名受験)、土木施工管理試験9名合格(3年12名受験)しており、例年より合格者は増加したが、学年・コース全体での意識をまだまだ高めなければならぬ。 ○コンテストへの取り組みはよく出来た。ものづくりコンテストと測量競技大会は、中国大会に出場した。		
電気	1 資格取得指導の充実	・資格、検定試験に対して計画的な補習計画を立て、始業前、放課後を活用し、資格強化期間を設ける。 ・検定や資格試験への積極的な取り組みと合格率アップを目指し、ジュニアマイスターの認定者数を増やす。	ジュニアマイスターポイント合計/ジュニアマイスター認定者 4:400点以上/5名以上 3:300点以上/3名以上 2:200点以上/1名以上 1:200点未満/0名	4	○540点(1年生279点、2年生109点、3年生152点) H28 349(1年生175、2年生140、3年生34) H27 316(1年生158、2年生73、3年生85) H26 392(1年生157、2年生116、3年生119) ※生徒数 H29 52名 H28 53名 H27 60名 H26 69名 ○ジュニアマイスター(ゴールド4名 シルバー 4名) ○第2種電気工事士(1年次)の合格率の高低が、その後の取り組みに影響している。	・高校時代に資格を取っておくことは価値がある。たくさん取得することはとても良いことなので、しっかり取り組んでほしい。 ・評価の基準が適切にできている。	A
	2 スペシャリストの育成	・コースの推奨する資格、検定等を取得させる。 推奨資格 Aランク:第3種電気主任技術者 Bランク:第3種電気主任技術者(科目合格)/第1種電気工事士/2級電気施工管理技術者検定 Cランク:第1種電気工事士(筆記合格) ・コンテスト(ものづくり、マイコンカー)で上位入賞を目指す。	4:県大会 1位またはAランク資格合格 3:県大会 2位またはBランク資格合格 2:県大会 3位またはCランク資格合格 1:入賞なし、取得者なし	3	○第3種電気主任技術者 科目合格 1名 ○1種電気工事士 7名合格(筆記試験合格者9名) ○電気施工管理技術者検定 8名合格 ○ものづくりコンテスト 県大会3位 ○マイコンカー全国大会出場(予選会2名入賞) ○難易度の高い推奨資格の補習を夏季休業中や平日の朝、実施した。		
建築	1 建築に対する興味を深め、自己の能力や適性に合った進路選択ができるように支援する。	・現場見学・講話等の体験を通じ興味関心を持たせ、自己の適性に合った進路選択を行う。	4:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等により興味関心を持たせることが十分にできた。 3:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等により興味関心を持たせることがほぼできた。 2:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等が十分に実施できなかった。 1:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等が実施できなかった。	4	○1学期中に、2・3年生に対し現場見学を実施した。また、2年生に対して1回目の林業インターンシップ(基礎講座)を実施した。 ○2学期には2年生に対し2回目の林業インターンシップ(実践講座)、2年生には山口県土木建築部による「平成29年度山口県建設業出張セミナー」を講師に協和建設株式会社「西村 伸行」さんを招き実施した。 3年生については就職・進学とともに全員1次で内定・合格することができた。 ○3学期には1年生に対し現場見学(積水ハウス山口工場・NGKエレクトロデバイス株式会社)を実施した。	・背伸ばしベンチはどのようなものか。 ・このような専門性を生かした取組は、生徒もやりがいを感じていると思う。今後のますますの活躍を期待したい。	A
	2 専門性を活かし、地元の発展に協力することにより地域に貢献する。	・制作物を展示・販売・寄贈等を行うことにより萩商工のPRをするとともに、山口県や萩市の企画に協力しボランティア活動を行う。	4:実習等による作品制作により、山口県や萩市の企画に協力・展示・寄贈を5件以上行い学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 3:実習等による作品制作により、山口県や萩市の企画に協力・展示・寄贈3件以上行い学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 2:実習等による作品を展示・販売し学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 1:実習等による作品を展示・販売し学校のPR、ボランティアを行わず地域に貢献できなかった。	4	○森林インターンシップの一環として頂いた木材を使い、建築実習で「山口ゆめ花博」に設置される休憩所を制作した。(来年度もう1棟作成し、計2棟出品予定) ○萩社会福祉協議会を通じ要望があった萩市須佐地区の特別養護老人ホーム「すさ苑」に課題研究で製作したベンチを寄贈した。(萩ケーブルテレビにて放映) ○萩市保健福祉部健康増進課より依頼を受け健康長寿背伸ばしベンチを「課題研究」の授業で作成した。(YAB「J」チャン山口)にて放映、来年度も2台の製作要請あり。 ○ものづくりフェスタ2017に恐竜アート作品を出展した。 ○山口県萩農林事務所より依頼を受けて制作したベンチがJR東萩駅・萩駅他に設置された。 ○課題研究「技術ボランティア」班が萩社会福祉協議会未来をになう子供たちの「福祉教育サポート」事業の一環として、白水小学校の昇降口にスノコ、萩東中学校にトンボ(レーキ)を作成し寄贈した。 ○課題研究「地域活性化プロジェクト」が道の駅「萩・さんさん三見」にて「日本一精度の高いびわの種飛ばし大会2017」を開催した。着物ウィークIN萩プレミアムにも参加した。 ○萩商工祭での木工作品の販売も盛況であった。		
1年	1 基本的な生活習慣を確立させ、高校生活に適応するための指導を推進する。	・個人面談や保護者会を実施することにより、生徒の状況や問題を把握し、それに合った支援や生活指導を行う。	4:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることが十分達成できた。 3:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることがほぼ達成できた。 2:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることがあまりできなかった。 1:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることができなかった。	3	○全員の生徒、保護者と面談を行い、生徒の状況を把握することができた。問題解決に向け各担任や生徒部と連携をとり対応している。現在も様々な問題を抱えた生徒がおり、継続的な指導・支援を行っている。	・様々な生徒が入学してくる中で、教員がいろいろな問題に気づいて、その対応ができてきていることは良い評価ができる。	A
	2 基礎学力向上のための指導を充実させ、基礎的資格を取得させる。	・3年後の進路を見据えた指導の一貫として、目標をもって学習に取り組ませるとともに、1学年で受検可能な資格を計画的な指導により取得させる。	4:目標をもって学習に取り組み、1年間で90%以上の生徒が資格を取得した。 3:目標をもって学習に取り組み、1年間で70%以上の生徒が資格を取得した。 2:ほぼ目標をもって学習に取り組み、1年間で50%以上の生徒が資格を取得した。 1:目標をもって学習に取り組みせず、1年間で50%未満の生徒が資格を取得した。	4	○学習に目標をもって取り組めており、90%以上の生徒が資格を取得した。今後、進路意識を更に高め、進路実現に向けた目標設定や資格取得ができるよう、指導や情報提供をしていきたい。		
2年	1 進路を見据えた上で、学校の中心学年として自覚を持ち、高校生活に対し意欲的に取り組む姿勢を育てる。	・個人面談の実施により、将来のキャリアや進路決定に向けてのアドバイスをする。同時に、学習面・生活面等についてもきめ細やかな指導を行う。	4:年2回以上の個人面談で生徒の状況と問題を的確に把握し、支援することが十分に達成できた。 3:年1回以上の個人面談で生徒の状況と問題を把握し、支援することがほぼ達成できた。 2:年1回は面談を行ったが生徒の状況と問題を十分に把握できず、支援することがあまりできなかった。 1:面談を実施できず、生徒の状況と問題を把握することも、支援することもできなかった。	4	○すでに年2回程度の個人懇談を実施しており、進路決定に向けて情報提供などの様々な取り組みをとおして生徒を支援している。	・生徒及び保護者と面談を実施し、その結果を受けて、今後の指導に役立てている。 ・生活習慣、提出物等の指導もきめ細かくよくやっていると思う。	A
	2 基本的な生活習慣を確立させる。	・期日と時間を強く意識させる。提出物を期日までに提出するように指導する。また、時間を厳守するよう指導する。 ・修学旅行、学年行事等の集団行動時の場に応じた行動、時間を意識した行動がとれるように指導を行う。	4:年間をとおして、時間・期日を守り、信頼される行動がとれた。 3:期日や時間の意識や、行動について問題がある場合は、支援や指導によりおむね改善することができた。 2:期日や時間の意識や、行動について問題がある場合は、支援や指導を行ったが全く改善が見られなかった。 1:期日や時間の意識や、行動について問題がある場合に適切な支援や指導を行うことができなかった。	3	○指導が必要な生徒には、各担当者できめ細やかに指導されている。 ○集団行動時の態度も日常的にさまざまな方面から指導されており、TPOをわきま良好である。今後修学旅行も控えているので引き続き指導していきたい。		



4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	
3年	生徒の希望・適性・能力に応じた進路指導を行う。	・生徒全員に複数回の進路面談・相談を行い、生徒の希望・適性を把握した上で、一人一人に適切な指導を行う。	4:全員に2回以上、面談・相談を実施することができた。 3:全員に1回は、面談・相談を実施することができた。 2:あまり面談・相談を実施することができなかった。 1:ほとんど面談・相談を実施することができなかった。	4	○全員に複数回の面談を実施することができ、生徒の希望や適性に応じた指導が行えた。各科・進路の協力も得ながら各担任が熱心に指導し、生徒の進路を決定することができた。	
		・生徒・保護者に対し、1学期中に進路資料を提供する。	4:全員に資料が提供できた。 3:希望者には、資料が提供できた。 2:あまり資料の提供ができなかった。 1:ほとんど資料の提供ができなかった。	4	○生徒・保護者が進路を考え、決定するために必要な資料や情報を全員に十分提供できた。	
業務改善	1 各種会議の効率化	・議題や校内研修等の精選及び事前準備の徹底による効率化を図る	4:議題等の精選、事前準備が徹底できて、各会議で協議が十分にできて勤務時間内に終了した。 3:議題等の精選、事前準備によって、各会議の協議は、ほぼ勤務時間内に終わることができた。 2:事前準備はできたが、議題等が多く各会議は度々時間を超過した。 1:議題等の精選、事前準備が行われず、各会議は多くが時間を超過して効率化ができなかった。	3	○職員会議は議題用紙に各議事にかかる時間を記入する取組を行った。事前の資料配布等がよくできており、時間を概ね守ることができた。 ○職員会議が、勤務時間を超えそうな時は、職員の了承のもと、朝礼時を有効に使用して実施できた。	
	2 教育職員と事務職員の連携強化	・教育職員と事務職員がお互いの業務に関する情報を共有し、スムーズな業務ができるように連携を行う	4:業務情報はすべて共有し、相互の業務に配慮、協力できた。 3:関連した業務情報は共有し、相互の業務に配慮、協力できた。 2:関連した業務情報は共有できたが、一部の業務に配慮、協力できなかった。 1:業務情報は一部しか共有できず、お互いの業務への協力は不十分だった。	3	○学校運営等に必要と思われる業務情報を多岐にわたり共有して連携することができた。 ○県の財源不足が深刻な状況下において教育職員と事務職員が連携することで費用対効果を意識した予算執行ができた。 ○土木電気実習棟工事、学校前国道拡幅工事、プール棟工事等について、工事内容の共有を適宜行い、教職員や生徒への安全対策を徹底した。	
	3 時間外業務の削減	・昨年度の月別時間外業務時間数より削減に努める	4:昨年度より30%以上の時間外業務時間数の削減ができた。 3:昨年度より20%以上の時間外業務時間数の削減ができた。 2:昨年度より10%以上の時間外業務時間数の削減ができた。 1:昨年度と同じ程度で、時間外業務時間数が削減できなかった。	1	○昨年度の月別時間外業務時間とほぼ同じであった。 ○最終退庁時刻19時台を努力目標として掲げて声かけをした。また、昨年度と今年度の業務時間全体の平均時間の推移について、比較ができる表を職員会議毎に配布して現状を知らせた。勤務時間短縮に向けた取組の意見を運営委員に求めて、その内容を職員会議で公表し、勤務時間を意識した働き方を醸成するように努めた。	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
<p>①計画している親師会の活動については、調整、運営は適切にできた。行事に関する情報発信もプリントからHPにわたるまでよくできている。しかし、依然として親師会総会の出席率が上昇しないことが課題である。総会の内容をはじめとして、親師会活動を工夫して活性化するように取り組むことが必要と考える。</p> <p>②朝読による読書習慣は54%の状況である。今後の活動によって、読書習慣がさらに定着するように推進していくことが大切である。家庭学習については、考查期間中の図書館の利用、漢字小テスト、英単語小テスト、長期休業中の課題による学習活動を行ったが、家庭学習の取組は低調であり、さらなる工夫が必要である。授業評価アンケートは1回目、2回目と改善を図ることができ、生徒の主体的な学習活動につながる授業改善を推進していく。</p> <p>③学校生活は頭髮服装検査の状況やマナー等から落ち着いていると評価できる。しかし、登下校は自転車等のマナー等で若干の苦情があるので継続した指導が必要である。生徒会行事は、各クラスに生徒会役員がいることから、全校生徒の意見をまとめて反映した活動にできて、運動会や商工祭の充実した取組につながっている。また、主体的に地域に貢献する活動もできている。いじめ等の対策は、初期対応が適切で情報を共有しつつ、解消・解決につながる取組ができている。今後も引き続きSC、特別支援教育支援員、特別支援教育コーディネーターの協力を得て細やかな指導を図る。</p> <p>④健康診断の結果による受診が必要な生徒の受診率が低い。受診勧告の紙を回数で色分けする工夫もしているが、受診率は67%であり昨年度並みである。健康意識向上を図る工夫が必要である。地域と連携した取組では、地元消防署の救急隊員によるAEDとエピペンの講習会について、生徒、教職員と一緒に受講して、万が一の際の行動ができる取組になった。</p> <p>⑤各学年におけるキャリア計画に沿った指導ができている。個人面談、インターンシップ、進路講話、応募前職場見学、オープンキャンパスの参加等、生徒が自ら進路選択ができるように指導しており、取組の成果は、3年生の進路決定100%、就職希望の生徒の1次試験の合格率96%という結果に表れている。今年度は地元企業6社による説明会を1、2年生に対して初めて行い、地元定着に向けた取組も行った。公務員、一般企業の就職に向けた試験対策や面接指導のますますの充実を図る。</p> <p>⑥ものづくりコンテストと資格検定等の取組は、知識と技能・技術を意欲的に学び、身につける機会となっている。商業科における資格取得状況は1年生は良好であるが、2年生は低下している状況も見られることから指導を見直すことが必要である。生徒商業発表大会では好成績をあげて全国大会出場を果たしている。工業科でも同様に、ジュニアマイスタポイントを意識した資格検定の取組ができている。まだ合格率が十分でないものもあることから指導と取組の改善を図ることが必要である。現場見学、ロボット競技大会、測量大会への取組、森林インターンシップ、木材加工の製作物の地域への寄贈等の活動はそれぞれに成果をあげている。</p> <p>⑦各学年における生徒の状況に合わせた面談ができている。保護者との連携もきちんとしてきており、不登校に陥る生徒がいないことにつながっている。また、進路決定するための必要な資料や有意な資格の情報提供もしている。これらの取組が学年会を中心に、商業科、工業科、生徒部、進路部で連携して適切にできている。</p> <p>⑧業務改善において、各種会議を効率的に行うための取組は、事前の議題内容と説明する時間の提示、事前の資料配布等ができ、勤務時間を意識した会議運営につながる取組ができた。しかし、勤務時間を意識した働き方や時間外業務時間を減らすことにはつながらなかった。教育職員と事務職員間で学校運営に必要な連携が取れたことによる費用を意識した取組の推進や学校内外に関する工事等の情報の周知が安全対策の徹底につながっている。</p>	

7 次年度への改善策
<p>◆学校教育目標の実現</p> <p>「各学科が専門分野を生かした系統的な学習を充実し、各分野のスペシャリストとして必要な知識・技術を習得させる。」</p> <p>「未来の社会を主体的に力強く生き抜く人材を育てるため、豊かな人間性を育むとともに、生徒一人ひとりの個性を生かして、その能力を十分に伸ばすキャリア教育を行う。」</p> <p>上記の目標に対して地域と連携した取組を深化させた教育活動を一層推進していくことが求められる。来年度にコミュニティ・スクールが導入される点からも重要である。</p> <p>◆校訓「質実剛健」「至誠一貫」「知行合一」をもとに、専門学校として地域を担う人材の育成を図るとともに、生徒一人ひとりの進路実現に向けて組織的に取り組む。</p> <p>◆「チャレンジ目標」・「一致団結→魅力発信」の実践を通して、基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、検定・資格取得、部活動や学校行事等の活性化を図り、豊かな人間性を育む。</p> <p>【学習指導】</p> <p>○「一人ひとりを大切にしたいわかる授業の実践」を通して、基礎学力の向上を目指すとともに、学習習慣の定着を図るために家庭における課題を与える。</p> <p>○朝読の継続からの読書習慣、試験期間中の図書室の利用を行う。</p> <p>○公開授業やアクティブラーニングの実践など、校内研修を積極的に推進し、教職員の資質の向上を図る。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○「いつでも面接試験が受けられる服装、マナー、挨拶、言葉遣い」の指導を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>○いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応の徹底を図るとともに、SC、関係者の連携をした取組からいじめの解消・解決に向けて取り組む。</p> <p>○情報モラル教育の充実や自転車マナーを含む交通ルール遵守について、積極的に指導を推進する。</p> <p>○地域貢献活動や各種ボランティア活動等への積極的参加や部活動の活性化などを通して、「豊かな心」を育むための実践活動の充実を図る。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○インターンシップの充実など、早い段階での職業観・労働観の育成を図り、計画的キャリアガイダンスを実践し、生徒が主体的に進路選択・決定する能力を育成する。</p> <p>○地元の魅力を知る講演会や地元企業の説明会の実施から、進路選択において地元定着を図る取組を推進する。</p> <p>【保健体育】</p> <p>○保護者・学校医・部活動顧問とも連携し、健康診断後の受診率向上を図るなど、生涯にわたって健康・安全な生活ができる能力を育成する。</p> <p>【業務改善】</p> <p>○業務時間を意識した働き方ができるように、組織力アップと業務の見直しを図る。また、OJTや校内研修等の充実を図り、学校全体の協働体制の構築を目指す。</p>